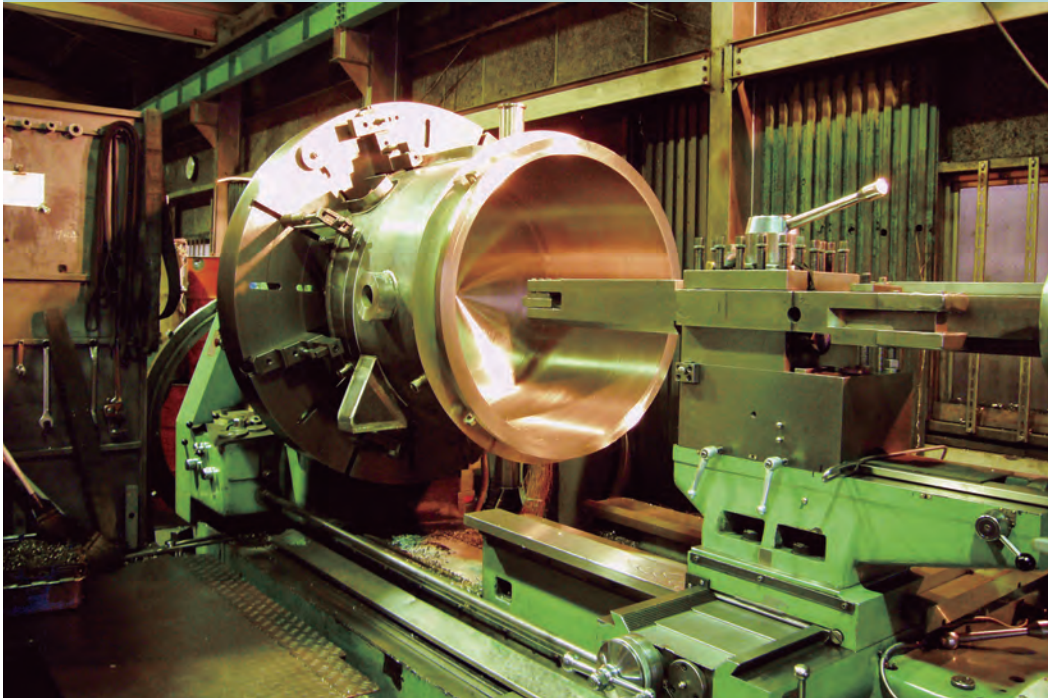


大型汎用旋盤と 熟練の技能で顧客開拓

納期相談
コスト相談
オンライン技術
メイドイン
ジャパン



大型汎用旋盤で大型容器を加工

業務内容
薄物・異形の技術を有し
単品生産にも応じる

「牧野鐵工」は大型汎用旋盤による金属部品加工を手がける。タンクの容器をはじめ薄物や異形状の多品種少量生産を得意とし、単品生産にも対応。これらはNC（数値制御）旋盤での加工が難しく、大型旋盤の技能者が豊富なノウハウや感覚的な技術を駆使して加工していく。

加工可能なサイズは最大で直径2,150mm×長さ2,100mm。主な加工部品はリチウムイオン電池製造装置用タンク、塗料攪拌機の容器など。容器容量の増量や耐久性を高めるなどのニーズに応え、薄型や軽量化の加工技術も高度化している。

強み
頼りにされる加工技術で
存在感高まる

今では大型旋盤7台を保有し、従業員の多くが熟練技能者だ。かつては同業他社も同じ旋盤で加工していたが、廃業する他社が増えた結果、現在では同社にしか現存しない設備もある。その設備と技術力により「存在感が高まっている」という。

加工対象物を取り付ける治具や切削工具、工具保持器が特殊品で調達できない場合、自社で製作する技術力も強みのひとつだ。また、機械メーカーとの共同開発で大型旋盤に導入した独自の操作盤は、機械メーカーにオプションとして採用された実績も持つ。鉄に限らずステンレスやアルミニウム、チタン、合金のハステロイやニレジストなど多様な金属に対応できる技術力も磨いてきた。

人材育成
豊富な仕事で技能向上
若い世代も大切に育成

顧客や協力会社も多く、さまざまな部品

加工をこなすことで技能を向上してきた。

人手不足に苦しみ中小企業が多い中、同社では若い世代も育てていくことで、平均年齢39・5歳と比較的恵まれている。牧野徹社長は「基本的にはマンツーマンで指導しており、技術習得には長期にわたる育成が必要」と説明する。大型旋盤も数年に一度は更新しており、平成19年に1台、同27年には中小企業庁の「ものづくり補助金」で1台を入れ替えた。豊富な仕事で技能者を大切に育成し、設備も数年ごとに更新する積極的な経営で人材を確保している。

今後の展望
業務の効率化図り
電子化・見える化を推進

単品の受注を含めた顧客数が100社以上にのぼる同社では、少数精鋭であるがゆえに業務の効率化が課題となっている。そのため主要顧客の加工や急ぎの加工についてはコンピュータを活用し、納期や工程表などの情報を共有する「見える化」を図った。設備面では大型旋盤の更新だけでなく、常に精度を保つためオーバーホールやメンテナンスにも取り組んでいる。平成30年2月にはクレーンも1台増設し、3台に増やすことで加工の待ち時間を短縮した。牧野社長は今後、「帳票の電子化を推進し、効率化を目指す」と意欲を示す。



リチウムイオン電池製造用タンク



大型汎用旋盤が並ぶ工場内

当社の歴史



昭和53年に大阪府大東市泉町で創業しました。以来、自動化の流れでNC旋盤を導入する企業が増える中で、当社は大型汎用旋盤の加工一筋に技術を磨いてまいりました。「汎用の加工ならば牧野鐵工にしか任せられない」と評価いただいており、これからも技能向上に努めてまいります。

代表取締役 牧野 徹さん

<http://www.makino-ironworks.com/>

主な事業内容

大型汎用旋盤による少量多品種の薄物、製缶、変形物、深穴物加工

主な取引先(納入先)

オムツ製造機器、化学薬品、遠心分離機、水処理機器、食品機器の各メーカー

●住所 〒571-0017 門真市 四宮6-6-21
●TEL 072-883-8538
●FAX 072-883-8539
●創業 昭和53年9月
●設立 平成4年1月
●資本金 1,000万円
●従業員 9名